

会 議 録

会 議 名	第1回森岡地区拠点施設基本構想・基本計画検討委員会	
開 催 日 時	令和7年1月8日(水) 午前9時30分から午前11時35分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	小松尚氏(委員長)、鈴木賢一氏(副委員長)、榊原企画政策課長、筒香住民自治課長、内田秘書人事課長、中村財政課長、新美防災危機管理課長、船津ふくし課長、青木児童課長、畔上環境課長、川瀬都市計画課長、前床まちづくり課長、長坂学校教育課長、関生涯学習課長、杉浦スポーツ課長
	事務局	神谷企画政策部長、板谷施設マネジメント係長、竹内主事
議 題 (公開又は非公開の別)	1 あいさつ 2 委員の紹介(資料1) 3 委員長・副委員長の選出 4 過年度の取組み及び今年度業務について (1) 過年度の取り組みについて (2) 今年度業務について 5 これまでの検討結果 (1) 事例勉強会 (2) 第1回整備計画検討会 (3) 施設管理者ヒアリング 6 森岡地区拠点施設基本構想・基本計画(案)について (1) 現状・課題・基本方針・コンセプト案の共有及び確認 7 今後の流れ 以降の作業部会・検討委員会・整備計画検討会等の流れ	
非公開の理由 (会議を非公開とした場合)		
傍聴者の数	1名	
審 議 内 容 (概 要)	・委員の出席及び会議の成立を確認 ・傍聴者の確認 ・神谷部長から挨拶 ・委員名簿を基に、各委員及び事務局の紹介 議題の審議内容は、下記のとおり	
備 考	—	

1 あいさつ（公開）
企画政策部長より挨拶。
2 委員の紹介（公開）
各委員より自己紹介。
3 委員長・副委員長の選出（公開）
互選により、小松委員を委員長として選出。 委員長より鈴木委員を副委員長に指名。
4 過年度の取組み及び今年度業務について（公開）
(1) 過年度の取組みについて (2) 今年度業務について 事務局より過年度の取組み及び今年度業務について説明し、意見交換を行った。 ◇鈴木委員 今回は多くの施設が複合することとなっており、学校を単独で建て替えるだけでも大変な事業であるため、本事業も困難な事業となることが想定される。ハード面を契機に事業が始まっていると思うが、こういった住民サービスが必要かということを考えていけると良い。東浦町は、以前より教育に特化した地域であり、本事業においても全国から注目されると思う。教育のあり方が重要であることから、教育の中身の議論がどこでされるのかは少し不安に思っている。 ◇小松委員長 本事業は、総論では賛成するが、各論では反対が起きやすい施策である。今回が良い機会であると捉え、今までできなかったことを、新しく考える機会にできると良い。本委員会では学校教育に関係する、または関係してくべき部署が集まっており、学校とどう連携していくかを考える必要がある。複合という雑居化にならないよう、21世紀型の公共施設をつくりたいと思うので、方向性を一致して本委員会で議論をしていきたい。
5 これまでの検討結果（公開）
(1) 事例勉強会 (2) 第1回整備計画検討会 (3) 施設管理者ヒアリング 事務局よりこれまでの検討結果について説明し、意見交換を行った。 ◇鈴木委員 事例勉強会は、短い時間であったが充実した時間であった。子ども教育の話も重要であるが、これから高齢者が増えていく中で、お年寄りがこういった充実した生活を送れるかも重要であると感じた。他市町村でも、高齢者の生活に学校が関わっていく、という話がでている。その施設があれば、充実した生活が送れるといった施設になると良い。 ◇学校教育課 事例勉強会や整備計画検討会では、児童を含む様々な世代の参加があった。事例勉強会で話のあった事例を、実際に見に行く話にもなっており、参加した児童も、学校のある日であるが、「ラーケーションの日」を活用して参加することとなっている。様々な動きが起きており、学校教育課としてうれしく思っている。

◇まちづくり課

多世代交流が住民より求められているが、ソフト事業なので、既存施設で試すこともできる。実際にやってみて、どういったものが求められているかを調べないと、新しい施設に反映しづらいと感じた。整備計画検討会①に参加し、まさに多世代交流が行われていると感じており、各意見がどう反映されるのか期待している。

◇小松委員長

「施設ができないとできない」という人は、施設ができててもできないケースが多い。今ある施設で試して、実態や実績を踏まえ、複合施設を整備していくことができると良い。

6 森岡地区拠点施設基本構想・基本計画（案）について（公開）

（1）現状・課題・基本方針・コンセプト案の共有及び確認

事務局より、東浦町公共施設再配置計画（案）について説明し、意見交換を行った。

◇小松委員長

概要版1枚目について、複合施設はまちの拠点となるということで、森岡地区というエリアの位置づけの整理を急遽作成いただいている。行政の方は承知の内容であると思うが、広域から人が集まってくる、また近隣の住宅地開発が進んでいるという状況の中で、エリアの中でどういった施設とするか、という視点が必要。

◇小松委員長

土地区画整理事業の中で、地割等は決まっているのか。

◇まちづくり課

細かくは決まっていない。土地区画整理事業は基本的に住宅用地となるが、公共用地として、小学校敷地に隣接した土地を確保している。資料3のP.12における赤で着色されている範囲が、土地区画整理事業の対象地となる。

◇小松委員長

土地区画整理事業対象地は本事業対象敷地の南側に広がっており、地域のハブになるような場所に位置していると理解した。

◇まちづくり課

「居住誘導施策の推進モデル」と記載あるが、複合される施設が居住誘導に必要な施設かというのと、そうとは限らないと考える。消防詰所が近所にあつてうれしいかということ、そうでもない。小学校も、子育て世代であればうれしいが、他世代は迷惑施設と捉えることもある。行政としてこういった書き方は必要であると思うが、アンケート等の細かな意見を受けると、書き方は気を付けていく必要があると思う。

◇小松委員長

今後、住民からもこのような意見が出ると思われる。複合する施設は、今後、変わりうる可能性もあるのか。

◆事務局

現状は、再配置計画に沿って動いている。多種多様な意見を積み上げて、再配置地計画が策定されたと認識している。各論を検討していくにあたって、大きな住民運動があれば考慮の余地はあると思うが、再配置計画のベースはゆるがないと考えている。

◇まちづくり課

複合する施設を踏まえると、本事業を「居住誘導施策の推進モデル」という書き方に違和感をもった。

◆事務局

土地区画整理事業としての考え方を踏まえ、記載方法は検討したい。

◇小松委員長

土地区画整理事業の範囲だけがサービス範囲ではないことにも、留意する必要がある。この一か所に集約することが適切かどうか、長いプロジェクトになるので、複合する施設が今後、変わりうる可能性もどこかに検討の余地は持っておいてほしいと思う。

◇環境課

環境課として、環境基本計画の見直しを行っており、本町の脱炭素化を推進するために、公共施設の省エネ化・ZEB化を検討する方針を打ち出そうとしている。本事業においても、ZEB化を考慮した検討をしていただきたい。本日の追加資料では、ZEB化の事例が掲載されているため、参考としていただきたい。

◇鈴木委員

事例にある環境調査センターには少し関わっていた。当施設は、もともとエネルギーを多く消費する建物であり、削減要素が多数ある施設であった。他事例として、瑞浪北中学校はエコスクールの取り組みをしており、また、豊田市土橋小学校も改修で省エネに取り組んでいる。学校でも照明等で削減できる要素はあるが、エネルギー削減要素が多数ある施設というわけではないため、寧ろ、こういった取り組みを環境教育に繋げる点が重要。豊田市事例では、子どもたちが学校での環境教育の取り組みを身に着けて、これを家庭に持ち帰り実践することで、学区全体のエコ化が進むといった事例になっている。そういった効果も期待できると思う。

◇小松委員長

学校建築は建物の中でもエネルギーとしてプアな建物であり、家庭では自動でトイレのふたが開くのに、学校のトイレはしゃがむ必要があるという状況も多い。学校自体のアップデートが必要であり、合わせて教育にも波及させていけると良い。

◇まちづくり課

ワークショップで様々な意見が出ており、今回の事業に当てはまらない意見は省かれているように見えるが、拠点施設として整備していくには拾い上げる必要がある。坂道に対する課題や、公園・遊具に対する意見等がある。車がないと不便に思うという意見に対しては、集約を図ることで施設までの距離が遠くなる場合もあり、どう対処していくのか、高齢者施設が少ないという意見に対して、複合化によりそういった部屋が増えるのか、そういった点をどういった目線で見ているのか気になる。

◆事務局

配置に関しては事業地が森岡地区の中心にある。個人により遠くなる・近くなるというのはあると思うが、俯瞰的に見て判断いただきたいと考えている。ソフト面で解決可能な部分もあると思うので、そういった検討はしていきたい。

◇まちづくり課

保育園を集約化するとあるが、集約化しない方が近くなる。地区の中心に整備という言い方をされているが、極論を言えば、多数の託児所を配置した方が利便性としては上がる。表現には気を付けた方が良いと思う。

◇学校教育課

現状把握の①学びについて、「標準設計の学校である“が”」の文章が気になった。また、アフタースクールについて、名前を特徴的に使っているだけで、一般的な放課後子ども教室を実施しているものであり、削除して良いと考える。その他特色として、個別化教育についても全学的に取り組んでいるため、記載いただければと思う。

資料7のアンケートについて、石浜西児童クラブの今後の方向性では、想定シナリオがあった上

での設問となっているため、公表していく資料としては、内容がわかるように示していくべきと考える。

ZEB 化について、災害時に電気・ガスが来なくなった際にも防災拠点として使えるような設備が必要であると考えている。

◇防災危機管理課

大規模災害時は小学校の体育館が避難所となる。避難所の運営は、森岡地区にある2つの自主防災会が行うが、そういった方の意見等も踏まえながら整備の方向性を考えるのが良いと思う。

◇小松委員長

日本では、避難所として学校の体育館を使うことが慣例となっているが、世界で見ると良い内容ではない。トイレ・ベッド・キッチンを揃えるという方針がある国もある。今回を機に、何か手を打つことができると良いと考える。

◇住民自治課

交流について、コミュニティの問題として、コミュニティ推進協議会に入っただけの方が少ないことがあげられる。会費や、役が回ってくるのが嫌だ、ということが理由である。会費を払って協議会に参加している方がイベントを運営しているが、このイベントには会費を払っていない方も参加しており、課題となっている。課題・必要性にあるような多様な交流が生まれても、この課題は解決されないという状況である。

◇小松委員長

交流について、何を指しているか、人によってとらえ方が違う。イベントに参加すること、一緒に遊ぶ事、一緒にの空間にいただけでも交流と呼ぶ場合もある。交流という言葉には、多様な中身を持っているということを理解しておく必要がある。公民館と中学校の複合化事例では、公民館利用者が「中学生に会うために身なりを整える」「中学生の声を聴くために公民館にきている」といった声も聞いている。本事業の基本構想・基本計画でも盛り込めると良い。

◇鈴木委員

元気な方は良いが、学校に行けない子、一人で子育てをしている親、一人で生活しているお年寄り等、声を拾いづらい方への目線も大事である。「まちの保健室」という言い方もあるが、明確な目的はないがそこに行けば安心する、話を聞いてくれる、といったような場所があると良いと思う。住民ワークショップだけでは拾えない目線もあると思うので、コンセプトの中に、何か要素が入ると良いと思う。キーワードとしては、ユニバーサルデザインやダイバーシティという言葉では意味合いが薄くなってしまいが、何か盛り込めると良い。

◇小松委員長

最近ではインクルーシブデザインといった呼び方もある。福祉の窓口になるような場所があると良い。公民館と中学校の複合事例では、供用開始後に福祉の相談室を中学校に置いた事例があり、相談しやすい環境が実現できている。アウトリーチ的な窓口を拠点に置くということが、何か示されていると良い。

◇ふくし課

コミュニティソーシャルワーカーを中学校区に2名配置しているが、十分な活動ができていない。学校はセキュリティ面で閉鎖的になりがちであるが、たくさんの人が集まる場所はたくさんの課題が集まる。複合拠点内の余剰場所において、CSW が常駐できるような使い方ができると良いと思う。

7 今後の流れ（公開）

事務局から今後の流れについて説明。